

モニタリング結果報告書 (令和3年度)

1. 施設概要

施設名	神奈川県総合リハビリテーションセンター		
所在地	厚木市七沢5 1 6		
サイトURL	http://www.kanagawa-rehab.or.jp		
根拠条例	神奈川県総合リハビリテーションセンター条例		
設置目的(設置時期)	心身障害者等の社会復帰を積極的かつ効果的に推進するため、福祉と医療の連携により、入所及び入院している者等に最も適した診断、治療及び機能回復訓練のほか、職業準備訓練、生活支援等を積極的に行うとともに、併せてこれらに関する研究を行い、総合的かつ一貫したリハビリテーションを実施するため(昭和48年4月)		
指定管理者名	社会福祉法人神奈川県総合リハビリテーション事業団		
指定期間	H28.4.1 ~ R8.3.31 (2016年) ~ (2026年)	施設所管課 (事務所)	県立病院課

2. 総合的な評価

総合的な評価の理由と今後の対応
※新型コロナウイルス感染症が3項目評価(利用状況、利用者満足度、収支状況)に与えた影響及び対応状況も含めて「総合的な評価の理由と今後の対応」を記載。
評価については、利用状況はC、利用者の満足度がS、収支状況がAであったことから、3項目評価はB評価とした。 令和3年度については、令和2年度に続き、新型コロナウイルス感染症の拡大により短期入所者の受入れを中止するなど、施設の利用を制限せざるを得ない状況が続いたことから、利用状況についての評価が低くなった。 新型コロナウイルス感染症が収束するまでは、施設の利用を制限することはやむを得ない状況であるため、今後も、感染拡大の状況を注視しながら、施設運営を行っていく。
<各項目の詳細説明> ◆管理運営等の状況 令和2年度に続き新型コロナウイルス感染症の影響により、計画していた事業の中止や施設利用の制限などを行わざるを得ない状況となったが、感染防止対策を講じつつ、適切に管理を行った。 また、「かながわりハビリロボットクリニック」の取組を行うなど、県施策との連携が図られている。 ◆利用状況 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、短期入所者の受入れを中止するなど、施設の利用を制限したことから、目標を大きく下回る実績が多数あり、C評価とした。 (A評価が1区分、B評価が3区分、C評価が6区分)。 ◆利用者の満足度 施設により9月~11月のいずれかで実施した。おおむねS評価となっているため、S評価とした。 ◆収支状況 収支比率が100.00%となったため、A評価とした。 ◆苦情・要望等 おおむね利用者に理解を得られるような対応がとられている。 ◆事故・不祥事等 施設利用中の利用者の骨折事故等が数件発生している。 ◆労働環境の確保に係る取組状況 「職場におけるハラスメント関係指針」の見直しを行うなど、ガバナンスの強化を行った。 ◆その他 神奈川県リハビリテーション病院については、中和抗体療法の実施や高齢者、医療従事者及び福祉施設入所者を対象にしたワクチン接種の実施など、県の新規新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を積極的に行った。 こうしたこともあり、新型コロナウイルス感染症が収束するまでは、センター全体が通常とは異なる運用となるが、今後も感染の動向に注視しながら、注意深く施設運営を行っていく。

3. 3項目評価の結果

3項目評価	利用状況 (項目6参照)	利用者の満足度 (項目7参照)	収支状況 (項目8参照)	3項目評価とは、3つの項目(利用状況、利用者の満足度、収支状況)の評価結果をもとに行う評価をいう。
B	C	S	A	S:極めて良好 A:良好 B:一部改善が必要 C:抜本的な改善が必要

4. 定期・随時モニタリング実施状況の確認

月例業務報告 確認	遅滞・特記事項があった月	特記事項または遅滞があった場合はその理由
	なし	
現地調査等 の実施状況	実施頻度	現地調査等の内容
	随時	工事の進捗確認や建物の破損・改修など、建物の現況確認を行ったほか、施設の運営状況について、必要に応じて現地視察を行った。
意見交換等 の実施状況	実施頻度	意見交換等の内容
	随時	電子カルテや工事の定例会議に加え、翌年度予算に関する調整や懸案事項に係る打合せなど、毎月複数回の意見交換を行っている。
随時モニタリングにおける 指導・改善勧告等の 有無	有 <input type="radio"/>	指導・改善勧告等の内容
	無 <input checked="" type="radio"/>	

5. 管理運営等の状況

[指定管理業務]

事業計画の主な内容	実施状況等	実施状況に関わるコメント
1 重点方針 (1) 高度専門性の発揮	<p>リハビリテーションセンターの指定管理者として、重度・重複障害者への医療・福祉サービスの提供とリハビリテーションにかかわる研究開発のため、優秀な人材の確保と職員の資質の向上に取り組んでいるが、新型コロナウイルス感染症の影響により、職員の高度専門性の向上のための研究・研修参加が困難な状況が、年間を通して続いている。研究・研修参加に関しては、活動のための往來が制限されたため、学会参加や専門資格取得のための研修参加をオンライン形式の参加を支援することで、高度専門性の維持向上を行ってきた。</p> <p>また、「かながわりハビロボットクリニック」は、筋電義手をはじめとしたリハビリ医療での治療・訓練効果の評価検証を行っており、令和3年度は、「未来筋電義手センター」として、乳幼児を対象をシフトし5人の乳幼児に筋電義手の訓練を実施した。なお、筋電義手事業のためのPT・OT等の増員配置を行ったが、筋電義手事業の人材確保と育成が課題となっている。</p> <p>ロボットを活用したリハビリテーションでは、主に脊髄損傷の患者を対象に歩行アシスト装置を活用した歩行訓練を行ったが、令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響で外来リハを制限したことにより、実利用者は9人に止まった。</p>	
(2) 収益の確保、効率化	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により利用率の確保が難しく、計画に対し、多くの施設で目標を達成することができなかった。</p> <p>一方、病院において年間を通じて新型コロナウイルス感染症患者の下り搬送を受け入れたことや新型コロナワクチンの接種医療機関としての取組が収入確保につながったこと、また、事業団として全体の経費節減のために新電力を導入するなど、事業費の効率的な執行にむけた経営改善努力を行った。</p> <p>現在、電気料金や物価の高騰など経営リスクにつながる不安材料もあるが、引き続き利用率の向上や収益の確保、効率化に向けた取組を進めていく。</p>	

(3) 安全管理対策の強化	<p>令和3年度から開始された屋内訓練等の改修工事では、利用者の安全確保に努め、滞りなく工事を完了することができた。</p> <p>また、患者・利用者への感染防止を目的に、年間を通じて面会の制限や外泊、外出等の制限を実施することとなったが、患者・利用者の協力もあり、病院・福祉施設ともにクラスターを発生させることなく安全な患者・利用者生活を維持することができた。</p> <p>なお、病院では、令和4年2月21日に入院患者の離院・離棟を想定した離院・離棟患者搜索訓練を実施し、福祉施設では、令和4年1月20日に外部からの侵入者を想定した地元警察による防犯研修を実施するなど、患者や利用者の安全確保に向けた訓練・研修を実施した。</p>	
(4) コンプライアンスの徹底	<p>令和元年度第3回理事会の決議により策定された「内部管理体制の基本方針」に基づき、コンプライアンスの強化に取り組んだ。</p> <p>また、令和3年4月には「職場におけるハラスメント関係指針」を見直すとともに、引き続き不正行為の未然防止、早期発見及び是正のための仕組み作りを行っている。今後も、社会福祉法人に求められる経営組織のガバナンスの強化及び事業運営の透明性の向上等に努めていく。</p> <p>さらに、事業団経営会議において、時間外休日労働時間数に関する労務関連の法改正に伴う対応として、職員の年休取得状況や時間外労働時間の状況を共有することとし、各所属の勤務実態の状況を確認することとした。</p>	
2 事業計画		
(1) 病院機能の充実		
(ア) リハビリテーション機能の充実	<p>患者の社会復帰を目的とするリハビリテーション病院として回復期リハ病棟入院料Iを維持している。入院患者数は、延べ76,318人（実入院患者数1,151人）で、一日平均の入院患者数は209.1人（一日平均入院率74.7%）、退院患者数は、1,153人で、家庭復帰が1,009人（87.5%）と最も多く、次いで施設入所83人（7.2%）、転院59人（5.1%）となっており、死亡退院は2人であった。なお、主な対象疾患は脊髄障害、脳外傷等の後天性脳損傷（高次脳機能障害）、骨・関節疾患（変形性股関節症等）、脳血管障害、神経難病、小児神経疾患（小児の高次脳機能障害、急性脳症後遺症等）、合併症を持つ重度身体障害者である。</p>	
(イ) 地域との連携強化	<p>地域連携室を中心に、近隣医療機関と連携し患者の受入れを行っている。紹介件数は2,038件であり、そのうち入院に関する相談は1,914件で、うち1,466件（76.6%）が入院申込みであったが、1,339件の入院を承認した。また、入院相談時に専門職である看護師がかかわることにより、紹介元病院から提供される情報を精査することができ、入院後のスムーズな診療につながっている。</p>	
(ウ) 患者の視点に立った病院経営	<p>ビデオ会議システムを使用した事前の入院相談やweb面会の実施を通じて、コロナ禍により生じている患者の心理的負担を軽減するように努めている。</p> <p>また、利用者からの要望や苦情については総合相談室にて対応を行い、患者支援（サポート）会議を通じ回答を紙面・口頭・掲示などにより行っている。</p> <p>患者満足度調査を実施したところ、入院患者満足度3.6点、外来患者満足度3.7点と目標値を達成することができた。</p>	

<p>(エ) 効率的・効果的な業務運営と経営改善</p>	<p>新型コロナウイルス感染症による患者数の減少、大学病院からの医師派遣一部困難など利用率の向上に不利な状況が続いた。地域連携室の活動により相談から入院決定までの日数は平均7.3日となっており、患者の迅速な受入れを行うことができた。</p> <p>地域別受入れ患者件数や近隣医療機関からの紹介率など分析を行うためのデータが集まっているため、今後、それらを活用して重点項目を定め、利用率向上を目指していく。</p>	
<p>(オ) 調査、研究・開発事業</p>	<p>医学的、工学的、社会福祉学的領域において調査、研究・開発を行い医療・福祉の向上に向け取り組んだ。また、当センターの調査、研究・開発経験を活かし、企業との共同研究、受託研究を実施した。</p> <p>調査、研究、開発成果として、協力企業の水回りのプラン集「バリアフリーブック住まいの水まわり編」を監修した。</p> <p>また、結果的に不採択となったが、神奈川県立産業技術総合研究所が支援する県内企業とともに、開発中の自立支援ロボットの市販化に向けて国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の助成金獲得に向けて産官医で連携した。今後は、当院の臨床フィールドを活用して評価実績を積み製品化を目指していく。</p> <p>スポーツ庁の委託事業である障害者スポーツ推進プロジェクト「障害者スポーツ用具活用促進事業」では、障害者スポーツの普及に必要な要因について調査を行い、医療職の認知が障害者スポーツ参加のきっかけにつながることを報告した。</p> <p>そのほかの障害者スポーツ支援の取組として、企業から競技用車いすの寄贈を受け、患者用の訓練やパラスポーツの体験のために有効に活用している。</p> <p>車いすバスケットボールや車いすテニス、バドミントンや陸上などの競技用車いすやスポーツ用義足、ハンドサイクルなどの用具の整備を行い、障害者スポーツの参加継続を支援した。</p> <p>令和3年度は、障害者スポーツの体験会を計画し、厚木市の後援を得て、厚木市が400名規模で開催するスポーツイベントと同時開催をすべく調整を行っていたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大によるまん延防止等重点措置の適用により中止となった。そのため、開催日程や開催場所を変更し、また、参加方法を事前申込制とすることで参加人数を制限して本体験会を開催したところ、障害者15名、障害児8名、一般参加者19名の計42名が参加した。</p> <p>3Dプリンタを活用し、「かなりは式3Dプリントシステム」として、リハビリテーションで用いられる自助具のクレイモデルの3Dデータ測定、CADデータ化、製作や切断した手の大きさに合わせた装飾用義手を作るなど個々の患者のニーズに合わせたリハビリテーションで活用した。</p> <p>かながわりハビリロボットクリニックでは筋電義手の処方、訓練、ロボットリハビリテーションの実施、企業・大学研究室への開発支援を行った。また、さがみロボット産業特区における実証実験の受入調整を行った。</p> <p>令和4年2月にセンター研究発表会を開催した。一般演題11題のほか「神奈川リハを導く新たな挑戦 ～未来を掴む筋電義手～」をテーマにシンポジウムを開催した。</p>	

<p>(2) 福祉機能の充実</p> <p>ア 七沢学園</p> <p>(ア) 施設機能の充実</p>	<p>福祉型障害児入所施設では、虐待やその傾向にあるケースと自閉症など広汎性発達障害やADHD（注意欠陥多動性障害）等を伴うケースの利用が依然として際立っている。令和3年度の利用者数は、入所が6人、退所が9人、一日平均入所者数は26.6人で、一日平均入所率は88.8%であった。</p> <p>また、虐待等の措置入所のほか、短期間（1か月～6か月）の施設入所を通して、ADL（日常生活動作）の評価や改善、集団生活での行動観察や評価、家族のレスパイト等の課題を絞り込み「集中療育」を実施しており、令和3年度は入所定員30名のうち2名枠を設けて、利用者実人数は4名であった。</p> <p>障害者支援施設の施設入所支援の利用状況は、入所が3人、退所が10人、一日平均入所者数は29.0人で、一日平均入所率は96.6%であった。日中活動支援の生活介護においては、強度行動障害者や医療ケアを必要とする利用者の健康維持を基本に機能や発達レベルに応じ機能維持訓練や軽作業、歩行訓練も行っており、一日平均利用者数は17.8人、一日平均利用率は93.8%であった。自立訓練（生活訓練）においては、利用者各々に合った個別作業を主とした支援を行っており、一日平均利用者数は15.4人、一日平均利用率は90.4%であった。</p>	
<p>(イ) 地域との連携強化</p>	<p>地域福祉支援事業では、電話や来園による相談支援及び知的障害児通所機関巡回指導は新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、利用制限を行ったため、事業中止となった。</p> <p>また、児童施設・成人施設ともに実施している短期入所事業についても事業中止となった。その他、児童福祉法第33条に基づく緊急一時保護による入所の受入れは実人数20人、延べ人数197人であった。</p> <p>なお、地域の知的障害者やグループホーム等へ地域移行した退所者及び短期入所のうち生活介護の受給者証を所持する者を対象として日中活動支援（通所訓練）を提供し、実人数7人、延べ人数293人を受け入れた。</p>	
<p>(ウ) 利用者の視点に立った施設運営</p>	<p>第三者からなる苦情解決委員により、知的障害児者は月2回の相談日を設け適切かつ公正に対応するとともに、施設毎の苦情解決第三者委員との情報交換等連携を図るため苦情解決連絡会を年2回実施した。満足度調査の結果は目標値を達成している。</p>	
<p>(エ) 効率的・効果的な業務運営と経営改善</p>	<p>七沢学園児童の家庭復帰率は、退所者9名のうち8名が家庭復帰をすることができ、目標値を達成することができた。強度行動障害児受入者数は延べ365人で、集中療育の利用者実人数は4人であった。</p> <p>七沢学園成人については、生活訓練事業において地域移行を着実に支援することができ、家庭復帰率の目標を達成することができた。強度行動障害者受入者数は延べ2,190人で、医療重度受入者数は延べ1,825人であった。</p>	

<p>イ 七沢療育園</p> <p>(ア) 施設機能の充実</p>	<p>重度の知的障害と肢体不自由を併せ持つ重症心身障害児者に治療や健康管理などの医療や看護の提供と療育及び日常生活の支援を行うとともに、在宅生活者に短期入所事業を提供した。</p> <p>主治医である小児科医師が中心となり他診療科医師の協力を得ながら看護師とともに日常的に医療ケアが必要である超・準超重症心身障害児者の受入れを行った。今年度の超・準超重症心身障害児者の受入れ実人数は24人であった。</p>	
<p>(イ) 地域への支援と連携強化</p>	<p>「在宅重症心身障害児（者）療育訪問指導事業」は事業中止となった。</p> <p>また、短期入所事業では、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、利用制限を行ったため、在宅の重症心身障害児者の家族等の疾病や休養目的などで実人数126人に対し、延べ595人の短期入所の提供となった。</p>	
<p>(ウ) 利用者の視点に立った施設運営</p>	<p>月1回の相談日を設け適切かつ公正に対応するとともに、施設毎の苦情解決第三者委員との情報交換等連携を図るため苦情解決連絡会を年2回実施した。</p> <p>満足度調査は、令和3年度の目標を達成した。</p>	
<p>(エ) 効率的・効果的な業務運営と経営改善</p>	<p>令和3年度の入所事業は116人を受け入れ、115人が退所した。また、一日平均入所者数は35.8人で、一日平均入所率は89.6%で目標に届かなかった。</p>	
<p>ウ 七沢自立支援ホーム</p> <p>(ア) 施設機能の充実</p>	<p>七沢自立支援ホームは、肢体不自由者及び中途視覚障害者の支援施設として一体的に運営している。</p> <p>肢体不自由者については、神奈川リハビリテーション病院と連携して、身体機能の回復・改善、職業能力・社会生活力の向上に必要な支援を行い、社会参加、家庭復帰が円滑に行えるように努めた。</p> <p>退所後の家庭復帰・就学・就労の実績は令和3年度の目標を達成できた。</p>	
<p>(イ) 地域との連携強化</p>	<p>地域における障害者や退所後の利用者等に通所訓練を実施し、実人数21人、延べ999人で、職場復帰に向けた支援、家庭復帰後の生活の質の向上及び社会生活に向けた支援等を提供した。更に視覚障害者に対しては訪問訓練を実施し、令和3年度は8件であった。</p> <p>また、短期入所事業では、在宅の肢体不自由者、視覚障害者を中心に家族等の疾病、休養などの理由で短期的に利用する者等で実人数11人、延べ41人の受入れを行った。</p> <p>その他に受託評価事業では、肢体不自由部門は、支援学校（支援学級）在学者の進路指導や施設利用者の生活自立支援に資するため、神奈川リハビリテーション病院と連携して、医学・心理・職能・社会生活等の評価を行っており、視覚障害部門は県内の盲学校等に在籍する視覚障害児者を対象に神奈川リハビリテーション病院眼科と連携し、視機能・触察能力・日常生活動作・コミュニケーション能力等の評価を行っている。受託評価の利用者数は実人数16人、延べ80人であった。</p>	
<p>(ウ) 利用者の視点に立った施設運営</p>	<p>利用者や家族からの苦情については、第三者からなる苦情解決委員により、七沢自立支援ホームについては月1回の相談日を設け適切かつ公正に対応するとともに、施設毎の苦情解決第三者委員との情報交換等連携を図るため苦情解決連絡会を年2回実施した。</p>	

<p>(エ) 効率的・効果的な業務運営と経営改善</p>	<p>令和3年度の肢体不自由者の施設入所支援の利用者数は、入所が27人、退所が27人、一日平均入所者数24.9人で、一日平均入所率は62.3%であった。また、日中活動支援の自立訓練（機能訓練）は一日平均利用者数が25.8人、一日平均利用率は61.5%であった。</p> <p>一方、中途視覚障害者の施設入所支援の利用者数は、入所が12人、退所が11人、一日平均入所者数7.6人で、一日平均入所率は75.7%であった。</p> <p>また、日中活動支援の自立訓練（機能訓練）は一日平均利用者数が10.7人、一日平均利用率は59.4%であった。</p>	
<p>(3) 地域へのリハビリテーション支援事業</p>	<p>地域における障害者・高齢者等へ適切なリハビリテーションサービスを円滑に提供するための業務を全県的な立場で行った。</p> <p>地域支援室では、リハビリテーション専門研修、地域リハビリテーション支援に関連する活動、県委託事業である神奈川県リハビリテーション支援センター事業を行った。</p> <p>県委託事業に関してはリハビリテーション情報の提供、人材育成、関係機関の連携を推進する業務を行った。</p> <p>また、高次脳機能障害支援室では「高次脳機能障害支援普及事業(国事業)」の神奈川県内の支援拠点機関として支援コーディネーターと心理判定員が配置されており、高次脳機能障害者への相談支援、普及啓発活動、研修事業等を行った。</p> <p>リハビリテーション専門研修は、医療・保健・福祉・介護専門職を対象とした研修で、二つの県委託事業を除き令和3年度は14コースの研修を計画したが、新型コロナウイルス感染症の影響により、5コースを中止し、オンラインに変更可能な9コースを実施した。受講者延べ数は、外部受講者274名、事業団職員40名で総受講者延べ数は314名であった。</p> <p>地域リハビリテーション支援関連活動として次の活動を行った。</p> <p>ア 「かながわ地域リハビリテーション支援連絡会」 政令市のリハセンターとの連絡会をオンラインで実施した。(1回)</p> <p>イ 地域医療介護連携会議等への参加</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 「神奈川県小児等在宅医療推進会議」(2回) 2) 「自立支援協議会」(県、保健福祉圏域、市町村) (10回) <p>※例年実施している、保健福祉事務所への難病患者支援研修等の協力については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止となった。</p>	

	<p>神奈川県リハビリテーション支援センター事業（県委託事業）として活動し、リハビリテーションの相談対応件数は127件、ホームページへのアクセス総数は49,602件であった。</p> <p>高次脳機能障害支援普及事業として次の活動を行った。</p> <p>ア 相談支援</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 個別支援（159件） 2) 巡回相談事業（6か所、延べ41回） <p>イ 普及・啓発</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 研修会の開催（中止） 2) 神奈川県高次脳機能障害相談支援体制連携調整委員会（オンライン開催） <p>ウ 研修関係事業</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 研修会の開催（オンライン開催） 2) 県内研修会への講師派遣（11回） 3) 事例検討会（6回） 4) ネットワーク育成事業：高次脳機能障害支援ネットワーク連絡会（2回） <p>エ 国との連携：全国高次脳機能障害相談支援コーディネーター会議（3回）</p> <p>オ その他の関連事業</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 連携構築 <ol style="list-style-type: none"> ①政令指定都市との連携（2回） ②自立支援協議会との連携（13回） ③当事者団体との連携（センター内に協働事業室を設置） 	
--	--	--

※指定管理業務に与えた新型コロナウイルス感染症の影響等がある場合、対応状況も含めて、「実施状況等」欄に記載。

[参考：自主事業]

事業計画の主な内容	実施状況等
該当なし	

※自主事業に与えた新型コロナウイルス感染症の影響等がある場合、対応状況を含めて、「実施状況等」欄に記載。

6. 利用状況

(1) 七沢学園（児童・入所）

評価	≪評価の目安≫ 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄に代わりとなる数値（定員数等）があれば記載してください。
B	

	前々年度	前年度	令和3年度
利用者数※	10,262	9,586	9,720
対前年度比		93.4%	101.4%
目標値	10,731	10,731	10,731
目標達成率	95.6%	89.3%	90.6%

目標値の設定根拠： 指定管理者申請時に策定した事業団経営計画
令和3年度の年度協定書

利用者数の算出方法（対象）： 年間延べ利用者数を集計した

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

【新型コロナウイルス感染症が利用状況に与えた影響と対応状況】 (※新型コロナウイルス感染症の影響により評価結果がCとなった場合は必ず記載)

①新型コロナウイルス感染症が利用状況に与えた影響

令和3年8月時点での児童利用者のワクチン接種率は約60%であり、施設の感染防止のために短期入所事業は中止とした。そのため前々年度の目標達成率は95.6%だったが、令和3年度は90.6%に下がった。1か月から3か月間の入所期間で課題に対する評価等を行う集中療育事業や児童福祉法33条に基づく緊急一時保護の受入れも行ったが、例年より少ない件数となった。

②令和3年度の対応状況

集中療育の利用実人数は4人、緊急一時保護は実人数20人（延べ人数197人）を受け入れた。受入れに際しては、入所前2週間の入所者本人を含めた御家族の健康状態のチェック、入所当日には入所者に抗原検査を実施し陰性を確認して受け入れた。児童相談所からの相談を受け、御家族の入院や手術、被虐待など緊急性の高い利用者を受け入れた。

(2) 七沢学園（児童・地域支援（短期入所、家族短期、家族一日））

評価	<<評価の目安>> 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄に代わりとなる数値（定員数等）があれば記載してください。
C	

	前々年度	前年度	令和3年度
利用者数※	845	0	0
対前年度比		—	—
目標値	720	720	720
目標達成率	117.4%	—	—

目標値の設定根拠： 指定管理者申請時に策定した事業団経営計画
令和3年度の年度協定書

利用者数の算出方法（対象）： 年間延べ利用者数を集計した

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

<p>【新型コロナウイルス感染症が利用状況に与えた影響と対応状況】 (※新型コロナウイルス感染症の影響により評価結果がCとなった場合は必ず記載)</p> <p>①新型コロナウイルス感染症が利用状況に与えた影響 施設内の感染防止を図るために、短期入所事業等の中止を決定した。その結果、前年度と令和3年度は実績が0となった。利用契約者には中止を知らせる文書を送付し、当園ホームページにも案内を掲載した。短期利用希望の問合せもあったが、状況を説明し御理解をいただいた。</p> <p>②令和3年度の対応状況 短期入所等の利用実績はないが、児童福祉法33条による緊急一時保護の相談を受け、年間で緊急性の高い20人の受入れを行った。入所に際しては、御家族全員の入所前2週間の発熱等の健康チェック、ワクチン接種の確認を行った。また、入所される御利用者には入所当日に抗原検査を実施した。今後も施設内の感染対策は継続して行う必要があるため、感染リスクの安全面の確認を取りながら、受入れは行っていく。</p>

(3) 七沢学園 (成人・入所)

評価	《評価の目安》 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄に代わりとなる数値（定員数等）があれば記載してください。
A	

	前々年度	前年度	令和3年度
利用者数※	9,886	10,780	10,575
対前年度比		109.0%	98.1%
目標値	10,194	10,194	10,194
目標達成率	97.0%	105.7%	103.7%

目標値の設定根拠： 指定管理者申請時に策定した事業団経営計画
令和3年度の年度協定書

利用者数の算出方法（対象）： 年間延べ利用者数を集計した

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

(4) 七沢学園 (成人・地域支援 (短期入所))

評価	《評価の目安》 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄に代わりとなる数値（定員数等）があれば記載してください。
C	

	前々年度	前年度	令和3年度
利用者数※	1,105	169	0
対前年度比		15.3%	—
目標値	1,380	1,380	1,380
目標達成率	80.1%	12.2%	—

目標値の設定根拠： 指定管理者申請時に策定した事業団経営計画
令和3年度の年度協定書

利用者数の算出方法（対象）： 年間延べ利用者数を集計した

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

【新型コロナウイルス感染症が利用状況に与えた影響と対応状況】 (※新型コロナウイルス感染症の影響により評価結果がCとなった場合は必ず記載)
①新型コロナウイルス感染症が利用状況に与えた影響 施設内感染予防の観点により短期入所事業は原則中止とした。令和2年度に引き続き令和3年度も感染リスクがないことを確認できた強度行動障害者に限定して受入れ調整したが、前回利用からの期間が空いたことから御本人のお気持ちが整わずキャンセルとなり、実績ゼロとなった。
②令和3年度の対応状況 施設内感染予防の観点により短期入所事業は中止としたが、例年利用されている強度行動障害者の短期利用に限り、受入れ調整したが、前回利用からの期間が空いたことから御本人のお気持ちが整わずキャンセルとなり、実績ゼロとなった。 令和4年度の短期受け入れに関しては、市中のコロナ感染状況を踏まえ、御家庭の状況など個別に判断し対応していく。

(5) 七沢療育園 (入所)

評価	《評価の目安》 目標値を設定し目標達成率で、S : 110%以上 A : 100%以上～110%未満 B : 85%以上～100%未満 C : 85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。 社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄に代わりとなる数値 (定員数等) があれば記載してください。
B	

	前々年度	前年度	令和3年度
利用者数※	13,125	12,782	13,078
対前年度比		97.4%	102.3%
目標値	13,807	13,808	13,808
目標達成率	95.1%	92.6%	94.7%

目標値の設定根拠： 指定管理者申請時に策定した事業団経営計画
令和3年度の年度協定書

利用者数の算出方法 (対象) : 年間延べ利用者数を集計した

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

(6) 七沢療育園 (地域支援 (短期入所、重心親子教室、療育訪問指導))

評価	《評価の目安》 目標値を設定し目標達成率で、S : 110%以上 A : 100%以上～110%未満 B : 85%以上～100%未満 C : 85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。 社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄に代わりとなる数値 (定員数等) があれば記載してください。
B	

	前々年度	前年度	令和3年度
利用者数※	1,154	429	595
対前年度比		37.2%	138.7%
目標値	700	700	700
目標達成率	164.9%	61.3%	85.0%

目標値の設定根拠： 指定管理者申請時に策定した事業団経営計画
令和3年度の年度協定書

利用者数の算出方法 (対象) : 年間延べ利用者数を集計した

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

(7) 七沢自立支援ホーム（入所）

評価	《評価の目安》 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。 社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄に代わりとなる数値（定員数等）があれば記載してください。
C	

	前々年度	前年度	令和3年度
利用者数※	15,532	13,403	11,851
対前年度比		86.3%	88.4%
目標値	17,173	17,173	17,173
目標達成率	90.4%	78.0%	69.0%

目標値の設定根拠： 指定管理者申請時に策定した事業団経営計画
令和3年度の年度協定書

利用者数の算出方法（対象）： 年間延べ利用者数を集計した

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

【新型コロナウイルス感染症が利用状況に与えた影響と対応状況】 (※新型コロナウイルス感染症の影響により評価結果がCとなった場合は必ず記載)
①新型コロナウイルス感染症が利用状況に与えた影響 昨年度同様に新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、外出・外泊・面会等の制限を行った。このことにより入所に至らなかったほか、早期退所者が増加した。
②令和3年度の対応状況 機能訓練上必要な外出については、感染予防の検討をした上で実施した。福祉局としての行事は中止としたが、所内のみでの行事については少人数で密を避け、適宜消毒等感染防止に努めながら実施した。 入所前の見学については、居住エリアに入れないため、動画を作成しYouTubeにアップロードした。地域担当との会議や入所相談時Zoomを使っている。

(8) 七沢自立支援ホーム（地域支援（短期入所、通所、受託評価））

評価	<<評価の目安>> 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄に代わりとなる数値（定員数等）があれば記載してください。
C	

	前々年度	前年度	令和3年度
利用者数※	472	68	41
対前年度比		14.4%	60.3%
目標値	1,372	1,297	1,297
目標達成率	34.4%	5.2%	3.2%

目標値の設定根拠： 指定管理者申請時に策定した事業団経営計画
令和3年度の年度協定書

利用者数の算出方法（対象）： 年間延べ利用者数を集計した

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

<p>【新型コロナウイルス感染症が利用状況に与えた影響と対応状況】 (※新型コロナウイルス感染症の影響により評価結果がCとなった場合は必ず記載)</p>
<p>①新型コロナウイルス感染症が利用状況に与えた影響 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、短期利用や受託評価の利用を制限したことから、利用率は大幅に低下している。</p>
<p>②令和3年度の対応状況 短期入所については緊急要件のみ受け入れた。受託評価については例年より人数を減らして受け入れた。通所については入所者と接触しないよう住み分けを行い受け入れた。</p>

(9) 神奈川リハビリテーション病院 (入院)

評価	《評価の目安》 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。 社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄に代わりとなる数値（定員数等）があれば記載してください。
C	

	前々年度	前年度	令和3年度
利用者数※	85,727	78,208	76,318
対前年度比		91.2%	97.6%
目標値	91,980	91,980	91,980
目標達成率	93.2%	85.0%	83.0%

目標値の設定根拠： 指定管理者申請時に策定した事業団経営計画
令和3年度の年度協定書

利用者数の算出方法（対象）： 年間延べ利用者数を集計した

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

【新型コロナウイルス感染症が利用状況に与えた影響と対応状況】

(※新型コロナウイルス感染症の影響により評価結果がCとなった場合は必ず記載)

①新型コロナウイルス感染症が利用状況に与えた影響

院内クラスターを防止するため入院時のスクリーニングを重要視した。県主導により開発したスマートアンプ法等を活用し、患者の入院時には検査を行い、陽性（疑い）患者は個室で隔離期間を設けるなど入院患者を守るための施策を徹底したため患者の受入れ数が鈍化した。

②令和3年度の対応状況

引き続き神奈川モデルの重点医療機関協力病院としてICUの空床をコロナ患者の下り搬送受入れのため確保している。地域連携室を中心としたビデオ会議システム等による事前の入院相談実施など感染症まん延防止による制限下において提供する医療の質を維持し、患者が安心して入院するための体制を整えている。

(10) 神奈川リハビリテーション病院 (外来)

評価	《評価の目安》 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。 社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄に代わりとなる数値(定員数等)があれば記載してください。
C	

	前々年度	前年度	令和3年度
利用者数※	55,126	45,452	48,777
対前年度比		82.5%	107.3%
目標値	73,200	72,600	72,600
目標達成率	75.3%	62.6%	67.2%

目標値の設定根拠： 指定管理者申請時に策定した事業団経営計画
令和3年度の年度協定書

利用者数の算出方法(対象)： 年間延べ利用者数を集計した

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

【新型コロナウイルス感染症が利用状況に与えた影響と対応状況】 (※新型コロナウイルス感染症の影響により評価結果がCとなった場合は必ず記載)
①新型コロナウイルス感染症が利用状況に与えた影響 外来受診に際し県外からの移動や公共交通機関を利用する必要がある場合などはコロナ禍において敬遠され受診控えにつながった。また、リハビリ訓練の提供においても感染症対策により入院患者と外来患者の訓練スペースを分ける必要があったため訓練が制限され外来患者数が目標値を下回った。
②令和3年度の対応状況 電話診察を実施し、リハビリ訓練においては感染対策を継続しながら実施数を増やし7割程度まで復調させている。また、1万2千回を超える新型コロナワクチン接種の実施や発熱診療、中和抗体療法の実施など外来のスペースを活用し感染症対策に関する県の施策に協力した。

7. 利用者の満足度

(1) 七沢学園（児童・成人）

評価	≪評価の目安≫ 「満足」（上位二段階の評価）と答えた割合が、S：90%以上 A：70%以上～90%未満 B：50%以上～70%未満 C：50%未満 ※評価はサービス内容の総合的評価の「満足」回答割合で行う
A	

満足度調査の実施内容	協定に定めた調査内容	実施結果と分析
	管理業務のサービス水準の向上を目的として実施	実施期間：令和3年9月13日～令和3年9月30日

[サービス内容の総合的評価]

質問内容 安心した生活、プライバシーの保護、相談事への対応、施設の印象等

実施した調査の配布方法 聞き取り 回収数/配布数 38 / 57 = 66.7%

配布(サンプル)対象 利用者本人

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	合計	満足、不満に回答があった場合はその理由
サービス内容の総合的評価の回答数	23	8	4	3	38	(満足) 心理科の職員がとていい。(不満) もう少し買い物とかに行きたい。(不満) 外へ出られる機会が欲しい。
回答率	60.5%	21.1%	10.5%	7.9%		
前年度の回答数	23	8	2	3	36	
前年度回答率	63.9%	22.2%	5.6%	8.3%		
回答率の対前年度比	94.7%	94.7%	189.5%	94.7%		

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

(2) 七沢療育園

評価	<<評価の目安>> 「満足」(上位二段階の評価)と答えた割合が、S:90%以上 A:70%以上~90%未満 B:50%以上~70%未満 C:50%未満 ※評価はサービス内容の総合的評価の「満足」回答割合で行う
S	

満足度調査の実施内容	協定に定めた調査内容	実施結果と分析
	管理業務のサービス水準の向上を目的として実施	実施期間:令和3年10月1日~令和3年10月31日

[サービス内容の総合的評価]

質問内容 施設のルール、行事・活動・食事、職員の対応状況 等

実施した調査の配布方法 郵送 回収数/配布数 29 / 39 = 74.4%

配布(サンプル)対象 長期利用者の家族(保護者等)

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	合計	満足、不満に回答があった場合はその理由
サービス内容の総合的評価の回答数	26	2	1	0	29	(満足)面会も制限下でできており配慮を頂き安心してあります。
回答率	89.7%	6.9%	3.4%	0.0%		
前年度の回答数	23	3	0	0	26	
前年度回答率	88.5%	11.5%	0.0%	0.0%		
回答率の対前年度比	101.3%	59.8%	-	-		

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

(3) 七沢自立支援ホーム

評価	≪評価の目安≫ 「満足」(上位二段階の評価)と答えた割合が、S:90%以上 A:70%以上~90%未満 B:50%以上~70%未満 C:50%未満 ※評価はサービス内容の総合的評価の「満足」回答割合で行う
S	

満足度調査の実施内容	協定に定めた調査内容	実施結果と分析
	管理業務のサービス水準の向上を目的として実施	実施期間：令和3年10月4日~令和3年10月15日

[サービス内容の総合的評価]

質問内容 施設のルール、集団生活、行事、施設設備、職員の対応状況 等

実施した調査の配布方法 個別配布、聞き取り 回収数/配布数 33 / 40 = 82.5%

配布(サンプル)対象 利用者本人

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	合計	満足、不満に回答があった場合はその理由
サービス内容の総合的評価の回答数	23	7	3	0	33	(満足) 看護婦さんはよく対応してくれありがとう。 (不満) PT、OT、STの回数を増やしてほしい。
回答率	69.7%	21.2%	9.1%	0.0%		
前年度の回答数	20	8	5	2	35	
前年度回答率	57.1%	22.9%	14.3%	5.7%		
回答率の対前年度比	122.0%	92.8%	63.6%	0.0%		

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

(4) 神奈川県リハビリテーション病院 (入院)

評価	<<評価の目安>> 「満足」(上位二段階の評価)と答えた割合が、S:90%以上 A:70%以上~90%未満 B:50%以上~70%未満 C:50%未満 ※評価はサービス内容の総合評価の「満足」回答割合で行う
S	

満足度調査の実施内容	協定に定めた調査内容	実施結果と分析
	管理業務のサービス水準の向上を目的として実施	実施期間:令和3年11月15日~令和3年11月26日

[サービス内容の総合評価]

質問内容 病院全般の満足度
 実施した調査の配布方法 病棟で配布 回収数/配布数 146 / 188 = 77.7%
 配布(サンプル)対象 入院患者

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	合計	満足、不満に回答があった場合はその理由
サービス内容の総合評価の回答数	77	28	7	1	113	(不満)「七沢リハビリ、神奈川県リハビリ、病院の違いが分かりにくかった。間違ったと思い混乱した!!」 (不満)「思ったよりもリハビリの時間が少ないように思う。急性期リハビリと訓練時間が大きく変わらない。」 (不満)「部屋はきれいで嬉しいが、もう少しリハビリを受けたい。」
回答率	68.1%	24.8%	6.2%	0.9%		
前年度の回答数	99	21	3	0	123	
前年度回答率	80.5%	17.1%	2.4%	0.0%		
回答率の対前年度比	84.7%	145.1%	254.0%	—		

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

8. 収支状況

評価	《評価の目安》 収支差額の当初予算額：0円の施設が該当 収入合計／支出合計の比率が S(優良)：105%以上 A(良好)：100%～105%未満 B(概ね計画どおりの収支状況である)：85%～100%未満 C(収支比率に15%を超えるマイナスが生じている)：85%未満
A	

[指定管理業務]

(単位：千円)

		収入の状況					支出の状況	収支の状況	
		指定管理料	利用料金	その他収入	その他収入 の主な内訳	収入合計	支出	収支差額	収支比率
前々年度	当初予算	3,002,339	4,375,079	37,236	備考のとおり	7,414,654	7,414,654	0	
	決算	2,988,168	4,268,988	32,572	備考のとおり	7,289,728	7,169,478	120,250	101.68%
前年度	当初予算	2,613,443	4,396,644	39,468	備考のとおり	7,049,555	7,049,555	0	
	決算	2,569,224	4,126,628	212,302	備考のとおり	6,908,154	6,885,834	22,320	100.32%
令和3年度	当初予算	2,585,476	4,322,268	39,139	備考のとおり	6,946,883	6,946,883	0	
	決算	2,562,892	4,118,597	142,267	備考のとおり	6,823,756	6,823,756	0	100.00%

※支出に納付金が含まれる場合、その内数

(単位：千円)

令和3年度 / 前年度 / 前々年度 /

<備考>

前々年度／受取利息配当金収入：(当初) 4,848 (決算) 3,708 その他収入：(当初) 16,093 (決算) 17,626 長期貸付金回収収入：(当初) 3,641 (決算) 5,392 こども園使用料・給食費・補助金収入：(当初) 12,654 (決算) 5,846

前年度／受取利息配当金収入：(当初) 4,543 (決算) 2,366 その他収入：(当初) 16,488 (決算) 15,495 長期貸付金回収収入：(当初) 3,641 (決算) 13,360 こども園使用料・給食費・補助金収入：(当初) 14,796 (決算) 2,604 コロナ等補助金収入：(当初) 0 (決算) 78,477 経営安定化調整資金取崩収入：(当初) 0 (決算) 100,000

令和3年度／受取利息配当金収入：(当初) 4,473 (決算) 682 その他収入：(当初) 16,144 (決算) 17,783 長期貸付金回収収入：(当初) 3,726 (決算) 10,650 こども園使用料・給食費・補助金収入：(当初) 14,796 (決算) 2,743 コロナ等補助金収入：(当初) 0 (決算) 110,409

9. 苦情・要望等 該当なし

(1) 七沢学園 (児童・成人)

分野	報告件数		概要	対応状況
施設・設備	苦情	0 件		
	相談	0 件		
	要望	0 件		
職員対応	苦情	1 件	今いるユニットを変えてほしい。職員さんにそのことを伝えても直ぐにユニットを変えてくれない。	4月にユニット替えをしたばかりで、利用者の関係性が落ち着いた時点で変更を考えると伝えた。
	相談	3 件		
	要望	4 件		
事業内容	苦情	0 件	今はコロナ対策で児童と成人との交流は、水曜日の卓球練習に限られている。成人寮を利用している利用者ともっと話しをしたい。	利用者の話を聞いた。成人寮には障害が重い利用者があることを伝え協力する大切さを伝えた。
	相談	31 件		
	要望	5 件		
その他	苦情	0 件		
	相談	0 件		
	要望	0 件		

※指定管理者に起因するものを記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

(2) 七沢療育園

分野	報告件数		概要	対応状況
施設・設備	苦情	0 件		
	相談	0 件		
職員対応	苦情	0 件		
	相談	0 件		
事業内容	苦情	0 件		
	相談	0 件		
その他	苦情	0 件		
	相談	0 件		

※指定管理者に起因するものを記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

(3) 七沢自立支援ホーム

分野	報告件数		概要	対応状況
施設・設備	苦情	0 件		
	相談	0 件		
	要望	0 件		
職員対応	苦情	1 件	秋に行う文化祭がコロナ拡大感染予防のため中止になってしまい残念であった。しかし、先日（施設内で小グループで行った）スポーツ大会は楽しかったので、小さな行事をまた実施してほしい。	外部との交流がある大きな行事の実施は昨今のコロナ状況で実施は難しいので、ビデオ鑑賞会など楽しめるイベントを企画した。
	相談	2 件		
	要望	4 件		
事業内容	苦情	0 件	コロナワクチンの接種について、住まいを引き払ってしまいどのように対応したらよいかと質問があった。	住んでいた町に連絡を入れ対応方法を確認するよう伝えた。また、接種券があれば隣にある病院で受けることができるか、職員に確認をすることも伝えた。
	相談	31 件		
	要望	8 件		
その他	苦情	0 件		
	相談	0 件		
	要望	0 件		

※指定管理者に起因するものを記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

(4) 神奈川リハビリテーション病院

分野	報告件数		概要	対応状況
施設・設備	苦情	2 件	東館の非常口（スロープ）がこけただけで危険。また、非常口前にワゴンや車椅子等が置いてあり適切でない。	スロープについては、業者による清掃を実施。また、病棟内の非常口などは環境整備を徹底するよう周知した。
	要望	6 件		
	感謝	0 件		
職員対応	苦情	21 件	検査技師が採血ができず別の職員に代わって3回目で採血できた。その後、両腕が紫色に広がり、しこりもあって不安になった。「そちらのミスなのだから家まで見に来てほしい。それができなければ謝罪文を送ってほしい。」	御連絡を受け、状況を把握するため患者さん宅に電話する。当院又は近医への受診を勧めたが、そちらのミスなのだから家まで見に来てほしいとのことで、何回かのお電話で御様子を確認するとともに口頭での謝罪を行った。また御要望により病院長名でお見舞いの謝罪文を送付した。その後は特に問題なく定期受診を継続されている。 院内においては、採血に関するトラブルが発生したときは速やかな対応と病院幹部への報告を行うように周知を行った。
	要望	2 件		
	感謝	6 件		
事業内容	苦情	12 件	コロナ禍で面会制限があるが、病院入口や駐車場、車の中などで家族と会っているのを見かける。コロナ対策で面会に制限をかけていても守られていない。制限の意味がない。	病院全体で面会制限についての基本的な取り決め事項を確認し、入院患者や来院者にわかりやすく説明と掲示をした。病棟以外、スタッフの目が行き届かない場所での面会を規制し、病院管理を徹底した。ホームページへも面会制限の内容を掲載した。
	要望	7 件		
	相談	1 件		
その他	要望	0 件	医事課に出した書類が返却されない。	併設の福祉施設の受付に出したものとわかり、福祉施設から文書を交付した。
	その他	1 件		

※指定管理者に起因するものを記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

10. 事故・不祥事等 該当なし

発生日	①発生時の詳細な状況 ②県職員による確認の状況（内容及び実施日を記入） ③その後の経過（現在に至るまでの負傷者の状況、再発防止策等） ④施設に対する問題点の指摘やクレームの有無（有の場合は概要を記入） ⑤原因及び費用負担の有無（費用負担が有の場合は内容および負担者を記入） ⑥記者発表の有無（有の場合はその年月日を記入）
6月4日	①6/4に神奈川県リハビリテーション病院で、病棟洗面台の前で倒れているところを発見した。ボディチェックにて右大腿の膨張と熱感があり、検査したところ右大腿骨骨幹部骨折が判明し手術となった。 ②7/15付け文書報告 ③患者の状況をアセスメントし、危険行動につながらないよう見守り、声かけを行う。 ④無し ⑤無し ⑥無し
6月15日	①6/15に神奈川県リハビリテーション病院で、外来受診を終えた患者が院内の廊下で転倒しているところを発見した。左肩疼痛の訴えがあり、検査したところ左上腕骨大結節骨折が判明し手術となった。 ②7/15付け文書報告 ③転倒しやすい履物を履いている患者に対して、適宜注意を促していく。 ④無し ⑤無し ⑥無し
10月14日	①10/14に七沢療育園で、N s チューブが胃に挿入しているか確認するため、レントゲン撮影した際、左第9肋骨骨硬化像を認めた。 ②10/19文書報告 ③家族が10/15に来園し、経過を主治医より説明し納得される。医師を交え対応策を検討し、職員2人での介助・ケアを基本とし、骨折のリスクがあることを念頭に置き対応していく。 ④無し ⑤無し ⑥無し
1月23日	①1/24に七沢自立支援ホームで、本人から「昨日の入浴時に滑って右足人差し指をくじいたので、体育訓練を欠席したい」と申し出あり、看護師がボディチェックしたところ、皮膚の色が変わっていることから、レントゲン撮影をした結果、右第Ⅱ趾中節骨骨折が判明した。 ②1/26文書報告 ③御本人に対しては、入浴の際は手すりを使うように助言し、浴場の床マットを滑り止め防止のシートを敷いて対応した。 ④無し ⑤無し ⑥無し
2月19日	①2/19に七沢療育園で、排泄支援のため、オムツを開けると左大腿部に腫脹、熱感があることを看護師が発見した。2/20にレントゲン撮影をした結果、左大腿骨の骨折が判明した。 ②2/21文書報告 ③職員2人での介助・ケアを基本とし、骨折のリスクがあることを念頭に置き対応していく。 ④無し ⑤無し ⑥無し

※随時モニタリングを実施した場合は必ずその内容を記載。

※過去に発生したものでも、新たな対応等を実施した場合には、その内容を記載。

※なお、大きな事故・不祥事について改善勧告を行わなかった場合は、その理由を併せて記載。

11. 労働環境の確保に係る取組状況

確認項目	指摘事項の有無	備考
法令に基づく手続き	無	
職員の配置体制	無	
労働時間	無	
職場環境	無	

※指摘事項は、県による監査（包括外部監査含む）又は労働基準監督署によるものとし、有とした場合は備考欄に概要を記載。